



小児看護専門看護師の 思考過程と実践

● 特集にあたって ●

“リアリスティック”小児看護専門看護師の 思考過程と実践（2020）

「小児看護専門看護師(certified nurse specialist in child health nursing)」に起源をもつ小児看護の専門家は、時を越えた2120年ごろ、どのような実践・活躍をしているのでしょうか？健康寿命が世界一の長寿社会に生きる今日からも遠く感じる100年後の社会、環境、看護、人々に思いをはせて、これからの小児看護を思考することがあります。

今回、特集の機会をいただいたわが国の「小児看護専門看護師」は、看護職の先輩諸氏、小児看護学の教員諸氏の看護実践・教育・研究の尊い歴史と社会のなかから誕生した存在です。

わが国の専門看護師制度において、「小児看護」の分野が特定されたのは、21世紀の幕開け後の2001(平成13)年に大学院修士課程(CNS コース)を修了した看護職が、2002(平成14)年に小児看護専門看護師の一期生として誕生したのが始まりです。2020(令和2)年3月現在、小児看護専門看護師254名は、医療、福祉、保健、教育などに所属し、多くの職種と共に働いています。博士(看護学)の学位を取得した小児看護専門看護師も増えています。看護職、多くの専門職種との協働において、小児看護専門看護師の思考過程と実践は、またとないタイミングのリアルなディスカッション、カンファレンスを通してレビューがされています。小児看護専門看護師は専門家、子どもの権利の擁護者として子どもとその家族への看護、自らの役割、あり方について日々、内省しつつ行動する存在でもあります。

フローレンス・ナイチンゲール生誕200年にあたり

WHO が定めた「看護師・助産師の国際年」に機会を得た本特集では、さまざまな場の第一線で活躍されている皆様から、小児看護専門看護師の実践(広義)における知について、今日の現実に即して執筆いただきました。小児看護専門看護師が、共に働く人々と協力しながら、子どもと家族に、人々と社会に、教育に、組織に、どのようにコミットし、貢献しているのか、その思考過程と実践に着目して共有していただけると幸いです。

既特集号『小児看護専門看護師の役割と課題』(2005年6月号, 編集渡邊輝子氏), 『小児看護における専門性; チーム医療を推進する看護職として』(2012年12月号, 編集萩原綾子氏), 『再考! 小児看護専門看護師の実践と役割』(2019年6月号, 編集長田暁子氏)とともに、本特集も小児看護専門看護師のアーカイブスに加わり歴史的に重要な記録として保存、末永く活用、クリティーク、未来に伝承するものとなることを願っています。

2020年春、新型コロナウイルス感染症の蔓延、医療の逼迫、これまで経験したことのない社会情勢の変化のなかで、英知を結集して心身ともにフル回転で、ご多用のところ執筆くださいました皆様に心より感謝申し上げます。医療保健福祉従事者の皆様に、ここに深い敬意と御礼の意を表します。

文京学院大学保健医療技術学部看護学科准教授／
小児看護専門看護師

染谷奈々子 Someya Nanako